

平成25年度(第3回)ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会議事要旨

日 時：2013年10月18日(金)15:00～16:40
場 所：国立遺伝学研究所 本館3階セミナー室
出 席：【所内】大久保・荒木・岩里・井ノ上 の各委員
 【所外】黒澤、野口、渡辺、小林 の各委員
オブザーバ：豊田特任准教授
事務局：総務企画課長、同副課長、研究推進チーム係長、事務職員

議 事：

審議に先立ち、委員長から委員(副所長樫)交代についての説明があり、後任となった荒木委員より挨拶があった。また、改めて本委員会における審査方針について説明があった。

1. ヒトゲノム・遺伝子解析研究計画について

資料1に基づき5件の申請について審議した結果、以下1件の継続申請について、遺伝研で行われる研究内容(解析)等が、試料提供者に説明合意されており、また利益・不利益の説明及び試料の取扱いについても引き続き適切に行われているとし、委員会としてこれを承認した。

申請-1 (nig1307)

申請者：比較ゲノム解析研究室 特任准教授 豊田 敦
課題名：パーソナルゲノムの高次構造に基づくアルツハイマー病発症病態の解析

以下2件の新規申請については、遺伝研で行われる研究内容(解析)等が、試料提供者に説明合意されていることが明確になっていないものの、実際に扱う対象については情報量の限られるHLA遺伝子のみとのことであった。審議の結果、非該当とすべきとの意見もあったが、個人のプライバシー侵害となる可能性は低いと思われること、又議論の経緯を残すためにも、承認の判定とすることとした。

なお、申請-3については、代表機関の計画において、状況に応じ情報量の多い次世代シーケンサーによる網羅的ゲノム及びエピゲノム解析を行うことが含まれていることが指摘されたが、遺伝研においては、あくまでもHLA遺伝子のみを扱うことを研究担当者の井ノ上教授に確認した。

申請-2 (nig1308)

申請者：人類遺伝研究部門 教授 井ノ上 逸朗
課題名：学童期のアレルギー性疾患、肥満症の実態調査と背景因子の研究

申請-3 (nig1309)

申請者：人類遺伝研究部門 教授 井ノ上 逸朗
課題名：子どもの健康と発達に関する出生コホート調査

以下1件の変更申請については、遺伝研で実施する遺伝子発現解析内容に変更が加えられたものの、扱う情報量は大きく変わらないこと、また既に提供を受けている試料を用いているが、代表機関HPにおいて研究内容等が適切に説明されていることを確認し、委員会としてこれを

承認した。

申請-4 (nig1310)

申請者： 人類遺伝研究部門 教授 井ノ上 逸朗

課題名：シトリン欠損症における病態発症に関わる遺伝要因解明の研究

以下1件の変更申請については、情報の保管場所を共同研究機関(東大)から遺伝研へ変更する点については、適切な管理を行うことを前提に問題ないと判断したが、一方で、その計画及び説明合意の内容から、連結不可能匿名化ではなく、連結可能匿名化とすることが適切だとし、計画書の修正を条件に承認とすることとした。

なお、今回のように所内において長期間のサンプル管理が必要になる場合、研究者個人にかかる負担や環境、設備等も考慮し、今後も引き続き委員会及び機関全体としての検討が必要ではないかとの意見があった。

申請-5 (nig1311)

申請者： 集団遺伝研究部門 教授 斎藤 成也

課題名：出雲人の大規模 SNP データ解析

2. その他

(1) 井ノ上委員から、資料2に基づき、倫理委員教育用プログラムに関連し、岐阜大学大学院医学系研究科主催の医学研究等倫理講習会をDVDにて受講した旨の報告があった。

また、東京医科歯科大他5機関が提携し e-learning として大学院生向けに活用されている「CITI Japan プロジェクト(Collaborative Institutional Training Initiative)」及び東海大学医学部において大学院指導者に義務化されている web 教材 (ヒトを対象とした研究：基礎編) の紹介があった。

(2) 委員長から、資料3に基づき「ゲノム研究倫理審査を考える会 (9/16 開催予定であったが 1/13 に延期)」の機関向けアンケート及び集計結果について説明があり、研究推進チームから、これまでの経緯及びアンケートの内容について補足説明があった。

なお、本会の関連において、今後新たに得た情報については、改めて委員会で報告を行うとともに、アンケート結果について意見等があればいただきたい旨の発言があった。

前回の議事要旨(案)について承認した。

以 上